

# 生き物いっぱい！夢いっぱい！

## ～身近な森で保全を考える～

札幌市立定山溪中学校 阿久津 美羽 瀬沼 愛佳 山内 希星 本間 峻 大村 凌丘 田口 貴浩 牧 裕介  
石狩地域森林ふれあい推進センター 上席自然再生指導官（所長） 藤生 浩史

### 研究の背景・目的

最近、エゾシカによる森林植生の被害、アライグマやニセアカシア等外来種による森林生態系への影響が心配され、森林環境保全のためにそれらを駆除することが行われています。

私たちは森林の中でいろいろな活動を行っていますが、私たちが思い描く森林は、たくさんの生物がいるみんなが仲良しの森林です。

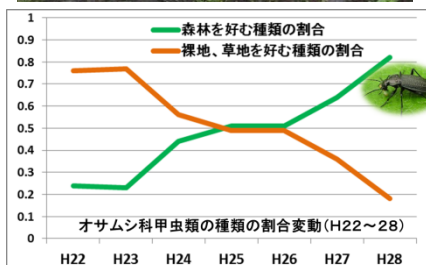
外来種も含めて既に一つの森林生態系ができあがっている状況の中で、「排除」ではなく「共生」をめざした保全の方向を私たちが活動している森林で考えてみました。

### 研究の内容・成果

平成22年から植樹活動を行っている**奥定山溪地区**でわかったこと

**活動の目的：材木置き場跡地→周辺と調和する多様性のある森**

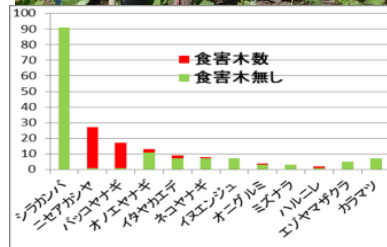
- 自動撮影カメラによる動物調査では、エゾシカ、キツネ、ヒグマ等が撮影され、撮影枚数はエゾシカが圧倒的に多かった
- 植栽木（ポット苗）は、厳しい気象条件、エゾシカの食害、キツネのいたずらによる被害が見られ生育はあまり良くない
- 食害防止柵設置（平成28年）後は、被害はなく生育は上向き傾向
- 地表性昆虫（オサムシ科甲虫類）は、裸地・草地を好む種類の割合が減少し、森林を好む種類の割合が増加している傾向にある



平成28年から森林づくりを行っている**活動地「夢の森」**でわかったこと

**活動の目的：建物跡地→私たちの夢を一つ一つ実現する森**

- 自動撮影カメラによる動物調査では、エゾシカ、キツネ、タヌキ、エゾリス、ニホンテン、ネズミ類のほか、鳥類も多く撮影された
- エゾシカは10月頃から多く見られ、季節による変化がある
- 上層樹木は、シラカンバ、ニセアカシアが大部分を占め、ニセアカシア、ヤナギ類、ハルニレはエゾシカによる樹皮被害が多く見られる
- 下層樹木は、ミズナラ、ヤチダモ、サワグルミ等が生育している
- 植栽木のアオダモにもエゾシカによる樹皮被害があった
- 地表性昆虫は、森林を好むオオルリオサムシが見られたものの、多くは食腐性、食糞性のシテムシ類、センチコガネ類であった



これらを踏まえて

共生をめざして**活動地「夢の森」**でできること

- 森林づくり活動地を共生エリア・植樹エリア・分解者ゾーン等に区分け
- 植樹エリアには食害防止柵を設置し、エゾシカ、キツネから植栽木を保護
- ニセアカシアについては上層の樹木として下層の樹木に対する保護効果もあることから、将来的に在来種が大きくなることにより、自然に衰退していくことを期待

### 今後の展開

- ◎自然の推移を基本に生物多様性が実感できる森林づくりが目標
- ◎エリアを区分けし、私たちができる範囲での保全活動を実施
- ◎継続的な森林調査が重要→先輩から後輩へしっかり引き継ぐ
- ◎たくさんの意見を聞き長期的な視点で身近な森を見守っていく



食害防止柵の設置

活動地「夢の森」にて